

# 児童の関心を引き出す森林教室

埼玉森林管理事務所 本郷 さんご  
土田 梨奈

## 1 森林教室の意義

森林教室の意義は、森林・林業に興味を持つきっかけづくりであり、そして、森林の重要性、森林・林業の課題を子供たちに理解してもらい、ひいては彼らに森林・林業に関心を持ち続ける人材の育成です。

そのためには、児童の関心と主体性を引き出し、印象に残る森林教室である必要があります。しかしながら、当所の森林教室は講師である職員の話が一方通行であったり、森林のお話の内容が毎年ほぼ同じだったりし、マンネリ化していたため、そこから脱する必要があると考えました。

## 2 令和6年度の森林教室における具体的な取り組み

### (1) 当所の森林教室の概要

当所の森林教室は、例年森林に関する知識の付与として森林のお話と、児童が木材に触れる機会を設けるため火起こし体験を行っています。実施場所は当所のある秩父市の隣町である、ときがわ町に所在する明覚小学校、玉川小学校、萩が丘小学校の3校の町立小学校を毎年順番に回っています。令和6年度は明覚小学校の5年生を対象に実施しました。

今年度は森林のお話と、火起こし体験に加えて、当所が独自に作成した、解説テキストの配布を行いました。また、さいたま市にある埼玉大学教育学部附属小学校のご依頼でオンライン授業に協力しました。

### (2) 森林のお話

過去の森林のお話は、要約すると、世界の森林の問題、日本の森林の特徴、森林の役割、シカ被害です。今年度は森林の役割とシカ被害のお話は残し、世界の森林の課題、日本の森林の特徴を世界と日本・ときがわ町の森林率に変更し、放置林のお話を追加しました。

放置林のお話を追加したのは、伐って、使って、植えて、育てるという適切な森林資源の活用を伝えるためです。

### (3) 火起こし体験

火起こし体験では、職員が道具の使い方を一通り説明した後は児童たちが協力しあいながら楽しく火を起す姿が見られました。

アンケートでは、「火起こし体験は楽しかった」の声が多く、達成感を味わうことのできる体験である



写真1 明覚小学校の森林教室の様子



写真2 火起こし体験の様子

ことから、今後も安全を確保しながら継続したいと考えます。

#### (4) 解説テキスト

今年度からは解説テキストを作成し、森林教室実施後に先生を通じ、児童に配布し、自主学習の資料として活用することで、森林について勉強する機会を提供することができました。

解説テキストの内容は、森林教室における森林のお話の内容、時間の都合上、そこでは説明しきれなかった森林に関する記事を記載しました。

文字だけでは想像しにくいことなどが、イメージがしやすくなるように図解や写真も入れるようにしました。

解説テキストの最後には、森林教室や、解説テキストの課題点を見て、来年の森林教室や解説テキストの改善に繋げるために、アンケートとは別に感想欄を付けました。実際の感想ですが、シカ被害について、森林についてもっと知りたい等の書き込みが見られました。

このことから、児童たちの森林・林業への関心の高さがわかります。また、来年度、さらに内容を充実させるための貴重な資料となりました。

#### (5) オンライン授業

オンライン授業はさいたま市にある埼玉大学教育学部附属小学校からのご依頼があったため、協力することにしました。この小学校は当所から直線距離で約 88 km と遠く離れた箇所に所在します。

これによりネット環境が整えば、どこでも森林教室が実施可能だと判断しました。また、埼玉大学附属小とのオンライン授業では、担当教諭の学習指導案で、児童が複数のグループを作り、グループで調べ、そこで疑問に思ったことを我々職員に質問するという形式を取りました。

このような形式をとることにより、講師側の話が一方通行になりがちな、オンラインであっても、児童の主体性を引き出すことが可能なことがわかりました。



写真3 オンライン授業の様子

### 3 まとめ

#### (1) 明覚小学校での森林教室

明覚小学校の森林教室実施後に取ったアンケートでは「シカ被害」「ときがわ町の森林が70%であることに驚いた」「森林のことをもっと知りたい」等のコメントがあったことから、児童たちから森林・林業に対する関心を引き出すことができたと考えます。

他方で、アンケートの「木をモチーフにしたキャラクターといえば」ではウッドマン等のときがわ町のキャラクターが挙げられたこと、その他の質問でもときがわ町の森林林業に言及する記載が多かったことから、児童の愛郷心が高いことがわかりました。また先生より「児童にはときがわ町の森林をもっと知ってもらいたい」というご意見もありました。このことから来年はときがわ町の森林に関するお話を多く取り入れるべきと考えています。

明覚小学校における森林教室は、森林のお話や火起こし体験では、児童との対話を重視しました。その結果、児童たちが自ら発言、話し合いなどをする姿から児童の積極性がみえました。

また、解説テキストについても、添付した感想欄を後日回収したところ、シカ被害のこと、森林

のことを言及する記載が見え、当所が意図した結果を得られました。また、児童たちは解説テキストを自主学習で活用していることから、森林教室実施後も自ら学習していることがわかりました。

## (2) オンライン授業

オンライン授業の懸念点は一方通行になりやすいという点です。そのため、児童の主体性を保つには、どのような形で進めるかを学校側と事前打合せをする必要があります。

また今後は教材の充実化のため、森林に関する動画や、現場からの中継を用いていくなど考えています。

## (3) まとめ

児童の関心を引き出す森林教室にするには、児童の主体性と対話をどのように導き出すかが重要です。具体的には、児童から回収したアンケートや、解説テキストの感想欄をもとに実施方法の改善、対話型の授業にするために、学校側と事前に進め方を綿密に打合せを行うことが重要です。